

第 16 回研究会より

参加者 9人+森田智幸（山形大学講師）先生

会場：雪の里情報館

今回は、A中学校で、グループを使った学びの有効性について、最初はなかなか教職員に理解が得られなかったが、夏の研修会で教職員の意識が変えた授業のビデオについて、カンファレンスしました。

笹原さんの説明のあと、A中学校の3年社会科の授業を視聴し、議論を交わしあいました。今回は、2時間くらい、じっくり協議をして大変有意義な会でした。

【授業カンファレンス】

A中学校 中学3年社会科公民 「TPPは賛成か？反対か？」

教室は、縦3列のコの字隊形でスタートです。



T: 黒板に当時の首相 野田佳彦の顔写真を提示

「漢字で書ける人いますか？」

S1:「おーい」

T:S1さん

S1:黒板にでて書くが、姓は書けても、名があいまい

T:「だれかほかに書ける人？S2さん」

S2:(女子生徒)正解を書く

T:「どちらが正解？」

S:「右」



T:「この間は、TPPについてやりましたが、TPPに賛成しますか？反対しますか？迷うな、わからんという人は、何がわからんか5分で書いて」

S:教科書や資料集を眺めだす生徒でてる

T:「立場を明確にしてください。」

タイマー音(5分経過)

T:「立場を明確にしましたか？」(挙手させる)

賛成9人程度

反対6人程度

わからん10人程度

T:「わからん人をなくしてください。わからん人を同じ土俵にあげてください。」

グループ(4人から5人)で、学びあい開始

ここからビデオは、手前にいる5人グループの学び合いを中心に撮影されていく。

M(女子):優秀でしっかりものの生徒

S(男子):落ち着きがなく大きな声、時々カメラにピースサイン

A(男子)物静か、MとSのやりとりを聞いている。でも資料集などときどき見る

B(男子)物静か、MとSのやりとりを聞いている

しばらくずっと、MとSのやりとりだけが進む

M：TPPに参加すると、日本産の農産物がなくなる。

S：そうしたら作ればいいじゃん

M：病気にもなるよ

S：「もし（病気になる確率が）50%と50%で・・・」

B：「(今までずっと二人のやりとりを聞いていた) 何で？」

S：逆に、何かある？日本のものだって、外国のものだって、なっしまえば同じ。今までなったことある？

.....

S：日本産って逆に何ある？

B：「うなぎ、大豆、米」

S：米と大豆だけで食べていけばいいじゃん

M：高いんだよ

S：高いのは買わないだろ

M：日本のものが高いの

タイマーがなり

全体での話し合いになる

S4：「(ビデオで見ていた班とは違う班の生徒) 完全が安くなると輸入品が安くなり、日本の農業が大変になる。病気のものも入ってくる。」

S5：「後継ぎが困らない」

T：「何で？」

S5：「高齢者問題があるがけど、輸入品がたくさん入れば、作らなくてもいい」

T：「どうですか？Sさん」

S : 「世界で食糧危機になると輸入が少なくなり、メシが食えなくなる。作る人がいなくなると。」

T : 「Sは賛成だったよね」

S : 「・・・だけど、TPPは賛成」

S6 : 「工業製品が有利」

T : 「何で？」

S7 : 「(同じ班の隣の女子生徒) 野菜っていうか、(日本は) 農業製品より、工業製品の輸出量が多いから」

T : 「なんで儲かるの？」

S? : 「貿易に対して、安いから輸出は有利、日本は工業で生きてきたから」

.....

T : 「じゃあ、もう一度聞くけど、こんどは迷う、わかんないはだめです」

挙手の結果

賛成 1 (S)

反対 全員

T : 「これからニュースの何に注目していきますか？」

- ・ 賛成か、反対か
- ・ 国民投票になるか

授業終了

【視聴してみて】

- ・ 全員参加する難しさを感じた。
- ・ グループでのSがすごい。

- ・ MのSへの対応が素晴らしい。負けてない。最後までSを投げ出さない。
- ・ Sもグループ作るとき、Mの机を引っ張ってきている。Sから支えてもらいたいんだらう。

- ・ Bが、突然「何で？」って入ってきたのは面白い。あのグループは、5人いる中で、2人のやりとりが全部だが、3人は聴いている。途中やりとりを聴きながら資料集を見ている。Cもちゃんと顔を上げて、二人の話を聞いていた。

(森田先生より)

- ・ やっぱり、話し合いではないんだなと感じた。静かに聞いている2人の生徒もしっかり学んでいる。MとSのやりとりはひとつのモニタリング。
- ・ 教材研究がしっかりされている、あの時期にTPPのことをやるのもすごい

が、TPPの最初の議論は菅直人というのも教材研究している証拠

- ・ この問題は総理一任ということが、すごく大きいと思う、こんなに議論したが、現実社会ではまともそうもなくなると一任という手法があるという理解

(森田先生から、振り返りという考え方について話があった)

自分自身はあまり振り返りという言葉は使いたくない。振り返りは「わかったことを聞く。」(到達点との距離のイメージ)それより、課題にもどすことが大切。今日のグループ活動を見て、どんどん情報が更新されている、新しい発想が起きる。最後の課題が大切、わかったことじゃなく、もどしてくれる課題。

いつも思うのだが、単元のはじめと同じ問いをまとめでも使うことだろう。同じ問いを改めてノートに書かせる。その際、〇〇を引用しながらとか、キーワードを出してまとめさせるのがよい。

→先生の話聞いて、TPPについて学ぶ前に、「ニュースのTPP問題に意見が言えるようになろう」という課題で始めて、今日の授業の次の1時間で、授業者が聞いた「ニュースの注目する点」ということでまとめさせるのがいいんかも

しれない。

→これまで授業の最後にまとめをさせてきたが、残り5分では難しかった。

(森田先生)

残りの時間ではなく、まとめという課題として、次の時間にしっかり取り組ませるのがよい。

また、課題＝内容と活動だと改めて感じた。内容が難しいが、活動は簡単というのが、この授業だった。よく見られるのは、内容が簡単で、活動が複雑というもの。あれでは、学びにならない。

→コの字隊形になって授業しているのはうらやましい、自分の学校ではなかなかやってくれない。

→コの字隊形の場合、黒板の板書をあきらめる勇気が必要だと思う。どうしても黒板に書かないと授業ではないという感覚がある。生徒からアンケートとっても、板書してほしいという回答がある。そういう生徒に限って、きれいにノートづくりをする。

(森田先生)

板書も活動のひとつと考える。内容が伴う活動なら、板書も必要だろう。

9月にS中学校に行って、学び合いが春とまったく変容していたのに驚いたが、その背景がこの授業でみることができ納得した。授業者の先生の声が、今はもっと変わっている。声を変えようとしたのではなく、このような授業に挑戦した結果、発生が変わったのだろう。

→TT授業のT2のあり方に疑問を持っている。いつも、自分が知らないところで最初から教えてしまう。

(森田先生)

A中学校でもこの問題は話題になっている。先生のポジショニングが変わって

きている。T1は、T2が「できるようにさせる」という発想がある。そうではなく、「学びをつなごうとする」のが大切。そうになると、対象生徒ではない、周りの生徒にアプローチするようになる。

→特別支援的配慮が必要な生徒が、すごく多くなってきた。取り出し指導には疑問を持っている。

(森田先生)

学力=できるという発想から取り出し指導がある。学力はつかむものではない。

→依存することに多くの教師が抵抗感を示す

(森田先生)

依存とは、良質な模倣のことと解釈したい。

なんだかあっという間の時間でした。参加者が元気になって、明日からの授業に挑戦して行ってほしいです。

ありがとうございました。



戻る